

よ、人間さ云ふものは身體に無理な事ばかり多くしてをるものだが割合に強いものだよ。ナニ運動は盛んにやるが良いよ、俺は今までに何も苦心も苦勞もした事はない、たゞバラタタ遊んだのみだ。

○

仙石さんの話を聞いてをると工事をやつた事も政治をやつた事も幾十年かの其生活は唯々遊びの哲學である。

成る程、憲政會の加藤内閣でも、若槻内閣でも仙石鐵相一人丈けば基石をイデル方が忙しかつたかも

知れない、此の遊びの中に閑僚の一人として最も重きをなした氏の或る力は今も尙ほあの腹の中に充實してをる様である。

○

此の家は明治四十年以來住んでをる、

○

と云はるゝ如く随分古い建物である、古風な日本建築そのものは老熟した氏の性格にピッタリと合つてゐる様にも見える。

仙石さんは東京電燈の八萬株を有する大株主である、富豪としても技術家の内では拔群の方である。

鐵道省建設局工事課
の 第三回
隧道會議記事

日本の隧道工事と云ふものが如何様に進歩しつゝあるか、如何なる経過を以つて研究されつゝあるか、

外國の文書や卓上の研究は成るべく當にしない方針で、實際に自分が工事にブツカリ、而して互の經驗を研究討議して、其所に眞剣な進歩の過程をつくりつゝあるのが、鐵道省工事課の隧道會議である。

第三回の隧道會議が大正十五年十月に開催されて其記録が漸く昨年の十一月に發行された、堂々三百七十頁の菊判横組の一冊子である。

橋本工事課長の序文に始まつて、東京地下鐵道の遠武技師長の

鐵道隧道工事中支保工の受くる荷重に就ての講演が六十四頁に及び圖解詳説を極めてをる。

次が各建設事務所の代表技術家が

支保工材の荷の利き方を見出す方法に就き各實驗上の討議がある。

次に濱田線の隧道事故、丹那隧道西口導坑の崩墜に就て、小峯隧道工事、支保工材繼合せの研究討議土壓大なる拱架材の外し方法、爆藥に就て、其他

支保工標準圖

支保工寸法を等級的に定むる討議

土壓理論に就て

支保工の腐蝕に關する討議

地下水處理の實例

清水隧道の斷層掘の切換に就て

キャツソル水道に於ける膠灰注入作業

等であるが、地質軟弱なる隧道施工に關する實際的討議は微に入り細を穿つたもので、從來比類なき好參考書である。工事書報社工事研究會は斯る有益なる記録は何等かの方法で一般に紹介する機會を得たいと思つてゐる。

ムジュン
の 妙 味

講演も専門的に熱中して來ると抽象的な論議が出て、甲の人と乙の人と面白い對象をなす事がある昨秋の工學會大會で理研所長の大河内正敏博士が基本工業論でスイスの精密工業の發達して居る長所と、獨逸の染料工業の發達して居る長所とを日本に取入れ、之を日本の基本工業とすべきであると。堂々たる風彩で一時間も雄辯を振はれ、會員もすつかり同感

處が建築學會の部會講演で、伊東忠太博士が技術的なオリヂナリーを説いて、他の國民性を我々が眞似るのは間違つてをる、我々には我々が國民的の天分があり長所がある、此の長所を忘れて他の長所を眞似るのは大間違ひである。長所は他の眞似し得らるべきものでない、自分の魂を忘れた摸倣では録なものは出来ないと舶來摸倣思想をすつかりコキ卸した。

圓熟せる伊東博士の講演の面白い事、一は工業基本論、一は建築藝術論、之れだけ違ふ。